

18 ロボット支援下膀胱全摘除術における 大建中湯術前投薬の検討

京都市立病院 泌尿器科

阿部 眞也、島崎 崇綱、細見 俊秀、上山 裕樹、
堤 尚史、清川 岳彦

背景：大建中湯は消化管蠕動運動改善作用の他に、腸管血流増加作用、抗炎症作用などを有すると言われている。一般的に術後1-2日目から服用することで早期の排ガス出現、術後イレウス発生の抑制効果が報告されており、当施設でもda Vinci SPによるロボット支援下根治的膀胱全摘除術(Robot-Assisted(Radical Cystectomy:RARC)で使用している。臨床的経験より、術後からの投与では、イレウス発生の抑制効果は不十分な可能性があると考え、術前からの投与でより良好な結果が出ることを期待し、術前投与を開始した。

対象・方法：2024年2月以降にロボット支援下根治的膀胱全摘除術と回腸導管造設術を施行した患者で術後1日目から大建中湯3包分3を服用した患者10名と、術前3日前より大建中湯3包分3を服用した患者2名を対象とした。術後の初回排ガス 排便までの時間と絶食対応となった有害事象(イレウス)発生の頻度を比較した。また、術前投与による有害事象についても検討した。

結果：初回排ガスは術前投与群で中央値31時間(27-35)、術後投与群で中央値24.5時間(9-234)であった。初回排便は術前投与群で中央値34時間(32-36)、術後投与群で中央値58時間(25-289)であった。イレウス発生頻度は、術前投与群で0例(0%)、術後投与群で4例(40%)であった。術前投与による有害事象としては、下痢が挙げられる。

結語：術前投与を開始した2例では共に、イレウス発生を認めなかった。術前投与が腸管蠕動運動改善に有用な可能性があるため、更なるデータの蓄積が望まれる。